



房総の沢初体験！

房総 高宕山 高宕川 (中退)

浅井

【日時】 2012年2月19(日)

【メンバー】 L山口、橋本、尾木原、渡辺、浅井

房総の沢は最近のガイド本などにもいくつか紹介されているが、私はまだ行ったことがない。今回房総の沢に詳しい山口さんが募集をかけてくれたので、参加してみることにした。高宕川はハイキングコースのある高宕山(330m)に突き上げる沢で、去年の秋に山口さんが見つけて狙っていた沢らしい。小さな沢だが、地形図で見ると蛇行が激しく意外と行程は長そうだ。

前夜蘇我駅に集合し、その夜は戸面原ダム近くの駐車場で仮眠。前日から強い寒気が入っており、かなり寒い。朝も冷え込み、なかなか沢モードにはならない。当初下山予定地に車を1台回すつもりだったが、そこには駐車スペースがなかったので、そのまま2台で入渓点近くの林道奥まで入り、8時ようやく出発。

沢に入るとすぐに房総の沢らしいナメが広がり、なかなかいい感じだ。途中小さな釜や小滝も出てきてなかなか変化に富んでいる(次頁上段左右の写真)。ただ夜の冷え込みのせいで水は冷たく所々薄氷も張っている。房総の沢は12月から3月までが遡行適期というが、今日はあまりにも寒すぎて快適ではない。

まもなく3段15m程の立派な滝が現れた。ネットにも写真が出ていた滝だが、予想以上に見事なナメ滝だ(次頁下段左の写真)。水流の右側にロープがフィックスされており、それを使えば登れそうだが、上部の傾斜がきつく、氷も張っているようなので、今回は無理せず右側から回り込んで高巻くことにした。高巻くと支流が近くを流れており、地形が複雑なの分かる。慎重に現在地を確かめながら、滝の落口の upstream に下りた。ロープを使う場面はなかったが、このあたりは真剣な沢登りの雰囲気味わえた。

この滝の落口は水流のトンネルになっている(次頁下段右の写真)。ちょうど二口溪谷の石橋のような光景だが、山口さんの話によると、これは自然に出来たものではなく、人工的に掘ったものだという。なるほど地形図には隧道のような記号が付いている。これも房総の沢ならではの不思議な光景だ。

この滝を越えると、後は平凡な溪相となり、蛇行を繰り返しながら、穏やかな流れが延々と続いた。地盤が柔らかく侵食が進んでいるのか、水量のわりには沢幅が広く、ちっぽけな沢とはとても思えない光景が広がる。兩岸には切り立った地層がむき出しになった所が断続的に続き、地質学的にもなかなか興味深い所ようだ。

さて、沢の変化がなくなってきた上に、時間的にも上までつめるのはきつくなったので、今日は途中で引き返して往路を下降しようということになった。そして11時で遡行

を打ち切ることに決めた。11時、左から3本目の支流が入る所で、遡行終了。地図を見るとまだ全体の半分も来ていない。この先も見てみたい気はするが、帰りの時間を考えるとやむを得まい。

お昼近くなるとようやく寒さも緩み、陽だまりでは暖かく感じるようになった。平坦な沢をひたひたと下っていく。行きに高巻いた滝の手前あたりから、左岸に延びる山道を見つけたので、そこに上がった。途中から車も通れるような立派な道になり、思いのほか早く、12:30には車に戻ることができた。

高岩川は前半は変化に富んでいて面白かった。何度か房総の沢に来ている橋本さんは今まで行った房総の沢の中でも一番きれいだったと言った。私は房総の沢は初体験なので、何もかも新鮮で面白かった。里に近く人間の生活とも密着度が高いにもかかわらず、沢は思いの外静かできれいだった。機会があればまた別の沢にも行ってみたい。

【グレード】 1級

【行程】 駐車場所(8:00)～中流部引き換えし地点(11:00)～駐車場所(12:30)

【地形図】 鬼泪山

